

令和7年12月11日

平泉町議会議長 高橋拓生様

総務教民常任委員会
委員長 升沢博子

委員会調査中間報告書
本委員会が調査した事件について、調査の結果を下記のとおり中間報告します。

記

1 調査事件

総務教民常任委員会所管にかかる調査について

(1) 人口減少対策について

2 調査の経過

(1) 本町を取り巻く状況と課題

本町の人口は、昭和60年の9,703人をピークとして現在に至るまで一貫して減少傾向が続いている。年齢区別でみると、年少人口と生産年齢人口は減っているが、老人人口は増加しており、3人に1人が高齢者である。人口が減少しているにもかかわらず世帯数は増加傾向となっており、1世帯当たりの人員が減少し、高齢者世帯が増えている状況にある。

人口減少の対策として、町の将来を担う若者を中心とする人材の定着に取り組み、町内企業の経営基盤の強化と企業誘致を積極的に推進することで若者の雇用の受け皿づくりが求められている。

また、子育て世代の経済的な負担を軽減し、ワークライフバランスを安定させることによって、希望する子どもの数を持つ子育て環境の整備を進め、子育てしやすいまちづくりにより少子化の流れを克服することが必要となっている。

将来的な移住にも繋がる「関係人口」の創出を目指し、地域外の方が平泉を好きになるきっかけづくりに取り組む事が必要となっている。

(2) 調査及び検討の経過

年月日	会議等
令和6年6月10日	常任委員会、所管事務調査 ・人口減少対策を調査し、提言へつなげることを確認 ・調査事項の発議(案)協議
令和6年7月5日	常任委員会 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例について行政視察先選定

令和 6 年 9 月 13 日	常任委員会、所管事務調査 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例検討 ・市民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和 6 年 9 月 26 日 ～9 月 27 日	先進地視察 栃木県那須町(那須まちづくり広場) 福島県国見町
令和 6 年 11 月 8 日	常任委員会 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例検討 ・市民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和 6 年 12 月 9 日	常任委員会、所管事務調査 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例検討 ・市民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和 7 年 1 月 23 日	常任委員会 ・人口減少対策について協議 ・市民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和 7 年 2 月 4 日	常任委員会 ・人口減少対策について協議 ・市民との懇談会(ワークショップ)
令和 7 年 3 月 11 日	常任委員会、所管事務調査 ・人口減少対策について協議 ・市民との懇談会(ワークショップ)の振り返り協議
令和 7 年 5 月 15 日	常任委員会 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例について行政視察先選定
令和 7 年 6 月 9 日	常任委員会、所管事務調査 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例検討
令和 7 年 7 月 3 日 ～7 月 4 日	先進地視察 山形県朝日町 山形県東根市
令和 7 年 7 月 29 日	常任委員会 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例検討 ・調査報告(案)、提言(案)の検討
令和 7 年 9 月 10 日	常任委員会、所管事務調査 ・人口減少対策について協議 ・先進地事例検討 ・調査報告(案)、提言(案)の検討
令和 7 年 11 月 25 日	常任委員会 ・人口減少対策について協議 ・調査報告(案)、提言(案)の検討
令和 7 年 12 月 8 日	常任委員会、所管事務調査 ・人口減少対策について協議 ・調査報告(案)、提言(案)の検討

(3) 町民との懇談会

【開催日時】 令和7年2月4日(火)

【会 場】 学習交流施設エピカ 会議室

【参 加 者】

町立小中学校PTA 3名

平泉商工会青年部 3名

地域おこし協力隊 3名

公募者 4名

高橋拓生議長

総務教民常任委員 6名

【テー マ】

「魅力ある地域づくり」

・あなたが思う平泉町の魅力は

・普段生活をしていて“もっとこうなったらいいのに”と思うことはなんですか

・移住者を増やすために何が必要だと思いますか



◆ 委員会所見

町民の人口減少対策については、様々な意見があると考えられることから、町内でそれぞれの立場で活動している、町立小中学校PTA、平泉商工会青年部、地域おこし協力隊、公募者との懇談会を平泉町議会主催の“ワークショップ形式”で行いました。

テーマを「魅力ある地域づくり」とし、「あなたが思う平泉町の魅力は」、「普段生活をしていて“もっとこうなったらいいのに”と思うことはなんですか」、「移住者を増やすために何が必要だと思いますか」などについて意見の交換をしました。

「あなたが思う平泉町の魅力は」については、「コミュニティがしっかりできているので暮らしていて安心である」、「平泉の子どもは自主性があり、親も地域も子どもをみんなで育てる文化がある」などの感想が寄せられました。

「普段生活をしていて“もっとこうなったらいいのに”と思うことは何ですか」では、「若者が集まる場所や立ち寄れる場所がなく、交通の便も良くないので、集まれる場所の創出や、交通アクセスの改善を行うことで町民の利便性を高めて欲しい」「遊具がある公園が町内に欲しい。家族連れの観光客も、子どもを遊ばせたり休憩ができるのでは」、「中尊寺と、毛越寺の門前通りに店がない」「京都のように線香やお守などを販売する店や、飲食などの店舗が通りに並ぶと活気が生まれると思う」などの要望がありました。

「移住者を増やすために何が必要だと思いますか」については、「移住後の仕事を心配する人もいるので移住体験を企画し、地元企業と移住希望者が自然とつながることにより、移住後の仕事へと発展していくのでは」などの提案が出されました。

地方では予測を超える少子化が進み、人口減少はどの町でも喫緊の課題となっています。当町は「小さくてもキラリと光る平泉」を目指しています。そんな魅力的な町にするため今、何が必要か町民の方々から様々な意見や提案を伺うことができました。

今後も、多くの町民の方々からの意見を頂きながら、町の活性化に繋がるような懇談会にしていきたいと感じました。

(4)先進地視察

令和6年

【期　　日】 令和6年9月26日(木)～27日(金)

【視察先】 那須まちづくり株式会社(栃木県那須町)、福島県国見町

【参加者】 総務教民常任委員6名、所管課長2名、事務局1名

【視察内容】

- ・那須町…那須まちづくり広場の創設から運営までの取り組みについて
- ・国見町…人口減少対策について
 - ・おおさかのおかプロジェクト
 - ・公有不動産再生活用事業
 - ・空き家改修等支援事業



【委員会所見】

人口減少対策の取り組みについて、先進的な施策を展開している栃木県那須町「那須まちづくり株式会社」と福島県国見町を視察しました。

「那須まちづくり株式会社」は、高齢者を中心とした多世代の「コミュニティ」であり、旧小学校の跡地や建物を再利用しリニューアルした旧校舎内は、衣食や文化交流、簡易宿泊所、介護サービスから放課後ディまで、基本的な暮らしの拠点として運営されているようです。周辺地域住民との交流はあまりなく、那須町からの支援も求めてはいないようだが、今後高齢者と要介護者の居住空間と、多世代が交流して共生していく事を考える時、こうした施設は民間力があって成り立つことを認識しました。

国見町では、まちづくりリノベーション事業として、町所有の倉庫をリノベーションしてコミュニティースペース、図書館、レストラン、ベーススペースなどを整備した「アカリ」を民間企業に貸し出し活用しています。また、昭和52年建築の公営住宅を改修しオフィスとして貸し出し、新たに町内で起業する人の育成を図ることを目的とした「大阪オフィス」を開設しました。それぞれの課題を解決し、町の資源のポテンシャルを最大限に生かした「大阪オフィス」がまちをつなぎ、好循環を生み出しています。

今回訪問した、那須まちづくり株式会社と国見町は、民間事業者が主体となり、人口減少対策としての移住定住の促進に向けた事業に取り組んでおり、民間事業者の知識と経験を活かしながら、新たなコミュニティや拠点を整備したことで、受け入れ態勢の構築がなされたと感じました。

令和7年

【期　　日】 令和7年7月3日(木)～4日(金)

【視察先】 山形県朝日町、東根市

【参加者】 総務教民常任委員 6名、所管課長2名、事務局 1名

【視察内容】

- ・朝日町…人口減少対策について
 - ・移住施策の効果について
 - ・結婚支援制度について
 - ・空き家の現状と活用への支援策について
- ・東根市…人口減少対策について
 - ・合計特殊出生率が山形県内で一番高い要因について
 - ・さくらんぼタントクルセンターの施設整備の考え方、利用状況及び効果について



【委員会所見】

人口減少対策の取り組みについて、先進的な施策を展開している山形県朝日町と山形県東根市を視察しました。

朝日町では、空き家を活用した成功事例として、工房としての活用、古民家での暮らしの発信、空き家店舗を活用した飲食店の開業などが見受けられました。

結婚や出産、就職を契機としたUターンの際の「引っ越し代」の補助を創設しております。しかし、業者を利用せず自前で引っ越しをする方が大半のため、補助の利用率は低くなっています。

特筆すべき点は、地域おこし協力隊制度を早い段階から活用してきたことで、婚活・空き家対策・空き店舗等の様々な分野で隊員の活動が広がっており、限られた資源の最大限の活用に努めていると感じられました。

東根市は、若者世代の移住などの定住人口の増加を受けて、子育て支援に力を入れたまちづくりに取り組んできました。子どもの医療費無償化や休日保育の実施、妊産婦検診費用の助成などもいち早く取り組んでおります。令和6年には中学校給食無償化や小中学校入学応援給付金の実施も行ってています。山形県内で唯一人口減少が緩やかであり、移住定住が進んでいるのも、こうした子育て環境整備支援施策が充実していることにより合計特殊出生率が高いためと考えられます。

さくらんぼタントクルセンターの施設整備の考え方については、母子センター、休日診療所、私立東根保育所といった保健福祉施設の老朽化や機能不足が課題となっていました。また、定住人口の増加や市民所得の向上等を背景に、新しい街づくりの機運が高まっていた時期もあり、市民が安心して健やかに生活できるよう、保健施設の拠点施設を求める声が強くなってきたことから、やすらぎを実感できるまちを目指し「東根すこやか・やすらぎの郷」構想として位置づけ、市民会議をはじめとした検討を重ね約8年をかけて完成した施設であります。

3 調査意見

1 人口の自然増への取り組み

【1】 近年の物価高騰は若い世代の生活を圧迫し、困窮する家庭も増加しているといわれている。若い世代が出産や育児に対して抱える不安を解消し、子育てしやすい環境整備のために、中学生への給食費の無償化及び第2子以降への出産祝金の多子加算の経済的な支援策を講じられたい。

【2】 子育て世代から強く要望のある、子どもたちがのびのび遊び、多世代が交流することができる公園の整備は喫緊の課題である。早急な整備を図られたい。

2 人口の社会増への取り組み

【1】 地域おこし協力隊などの人材を活用し、小規模ビジネスなどの起業を促し、中尊寺通りや毛越寺通りの空き店舗の活用により、観光客が散策したくなる町並みの形成を図り、交流人口の増加を図られたい。

【2】 お試し居住をさらに推進し、移住への機会の創出を図られたい。

【3】 若者のUI ターンを増やすためには、雇用の場としての企業誘致を積極的に推進することが必要である。企業誘致の推進と、空き家バンクの充実による住まいの提供を図られたい。

また、安価で購入できる住宅団地の造成など住環境の整備を図られたい。

4 その他

今後は、調査意見がどのように町政に反映されるのかについて、継続し調査研究を進めています。